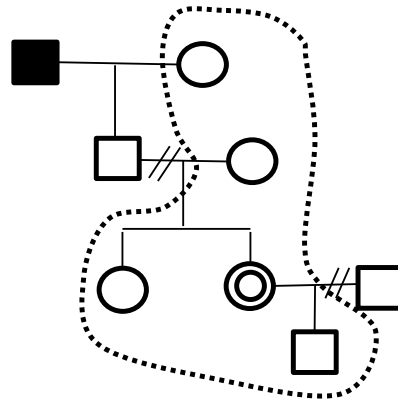


氏名	塩谷 恵美 様 (仮名)		年齢	36歳	性別	女性
住所	A市	職業	福祉的就労 (就労A型)		体格・特徴	身長160cm 体重67kg
手帳・年金	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害者保健福祉手帳2級 障害基礎年金2級 		診断名	うつ病		体格は良い。眼鏡使用。 2年前の体重は約90kg。 顔色不良。表情乏しい。
事例提出の理由 家族関係が不良の中、本人は家庭内で疎外感を感じている。うつ病による心身の不調を回復し、生きがいをもって生活するために、また家族関係を改善するために、どのような支援が必要か助言をいただきたい。						
本人の希望 息子と二人でアパートで暮らしたい。 一般の会社で働いて収入を得たい。 体調を安定させたい。				家族の希望		
家族構成 		家族関係・家族状況・経済面等 本人：障害基礎年金受給 月額6.5万円 就労継続支援A型事業所工賃 月額5万円位 児童扶養手当受給 月額4万円位 (年3回受給) 母：67歳 パート勤務 (週3日) 月額12万円位 老齢年金受給 月額8万円位 世帯主、非課税世帯、寡婦控除あり 健康良好、性格は厳しい 妹：34歳 高校卒業 無職 摂食障害で入院歴あり 精神障害者保健福祉手帳2級 障害基礎年金2級受給 6.5万円位 本人との関係不良 甥の事はかわいがってくれている 祖母：91歳 在宅 簡単な家事仕事ができる 認知面に問題なさそう。介護サービス利用なし 年金受給申告していない 長男：中学2年生 県立高校進学希望 剣道部に所属				
既往歴 現病歴 H 7. 12月 B病院精神科受診 H 8. 1月 C病院精神科入院 H15. D病院精神科入院 (1年間で2回) H17. D病院精神科入院 H19. 4月 Eメンタルクリニック受診		服薬 無・ 有 コントミン アナフラニール ルーラン ジプレキサ ガスモチン } 毎食後 ヒルナミン 就床前				

ケースの生活歴

年 S53 H3 6 7 8 9 10 11 12 13 15 17 19 21 25
 歳 0 12 15 16 17 18 19 20 21 22 24 26 28 30 34

A市で出生
 小学1年から4年までいじめあり
 小学校卒業
 小学2年いじめあり
 中学校卒業
 H高校普通科入学
 B病院精神科受診
 精神センター受診（うつ病の診断）
 C病院精神科入院
 H高校普通科卒業
 福祉系専門学校入学（2年で中退）
 結婚（夫の実家へ）
 特養の介護員として働く（半年間）
 離婚（実家に戻る）
 ゴルフ場で働く（半年間）
 前夫と再婚
 長男出産
 離婚（実家に戻る）
 D病院精神科入院（2回入院）
 Eメンタルクリニック受診
 D病院精神科入院
 精神保健福祉手帳取得
 相談支援センター初回相談
 障害年金受給開始
 ハローワーク求人登録
 就労A型利用開始

→ほぼ寝たきりで生活←

両親離婚
 祖父死去

能力

<ADL, IADL>

- ADL
- 食事
- 調理 （簡単な調理可）
- 移動 （軽自動車運転可）
- 入浴
- 掃除
- 洗濯
- 排泄
- 保清・整容
- 服薬管理
- 金銭管理

<対人>

他人に言われたことが気になる
 友人なし
 霊能師のもとへ相談に行くことあり
 自己主張

<仕事>

持続性

集中力

<趣味>

読書（霊能関係）
 たばこ コーヒー

<特技>

自動車運転免許あり

生活サイクル

<1日>

6:00 起床
 7:00 朝食
 9:30 就労A型事業所
 15:30 帰宅、家事
 19:00 夕食
 22:00 就床

<1週間>

月 火 水 木 金 土 日

AM

就労継続支援A型
 (4週8休シフト)

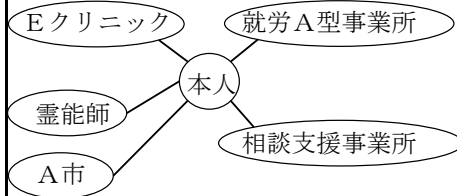
PM

住環境

台所	風呂 WC	母部屋
居間	自室	
	玄関	縁側

木造平屋 築40年以上
 庭は雑草が生い茂る

活用しているサービス、ネットワーク関連図



<1か月>

月 火 水 木 金 土 日

1W

2W

精神科通院

3W

4W

精神科通院

現在の状況

月に20日程度市内にある就労継続支援A型事業所に通っている。椎茸採取、出荷作業を行い、事業所では他利用者とのコミュニケーションも取れている。体調を崩しやすく、風邪を引いたりして休むことがある。心身の不調から、事業所に向かうが途中で引き返してしまうこともたびたび見られる。

家族は、母、妹、祖母、長男との5人家族。家計は家族それぞれの年金と母のパート収入。決して楽ではない。本人と妹、母との関係性が不良のようで、どちらかというとな人は疎外感を感じながら生活しているようである。

【出された支援アイデア（⇒主たる担当者・調整する人、おおよその時期）】

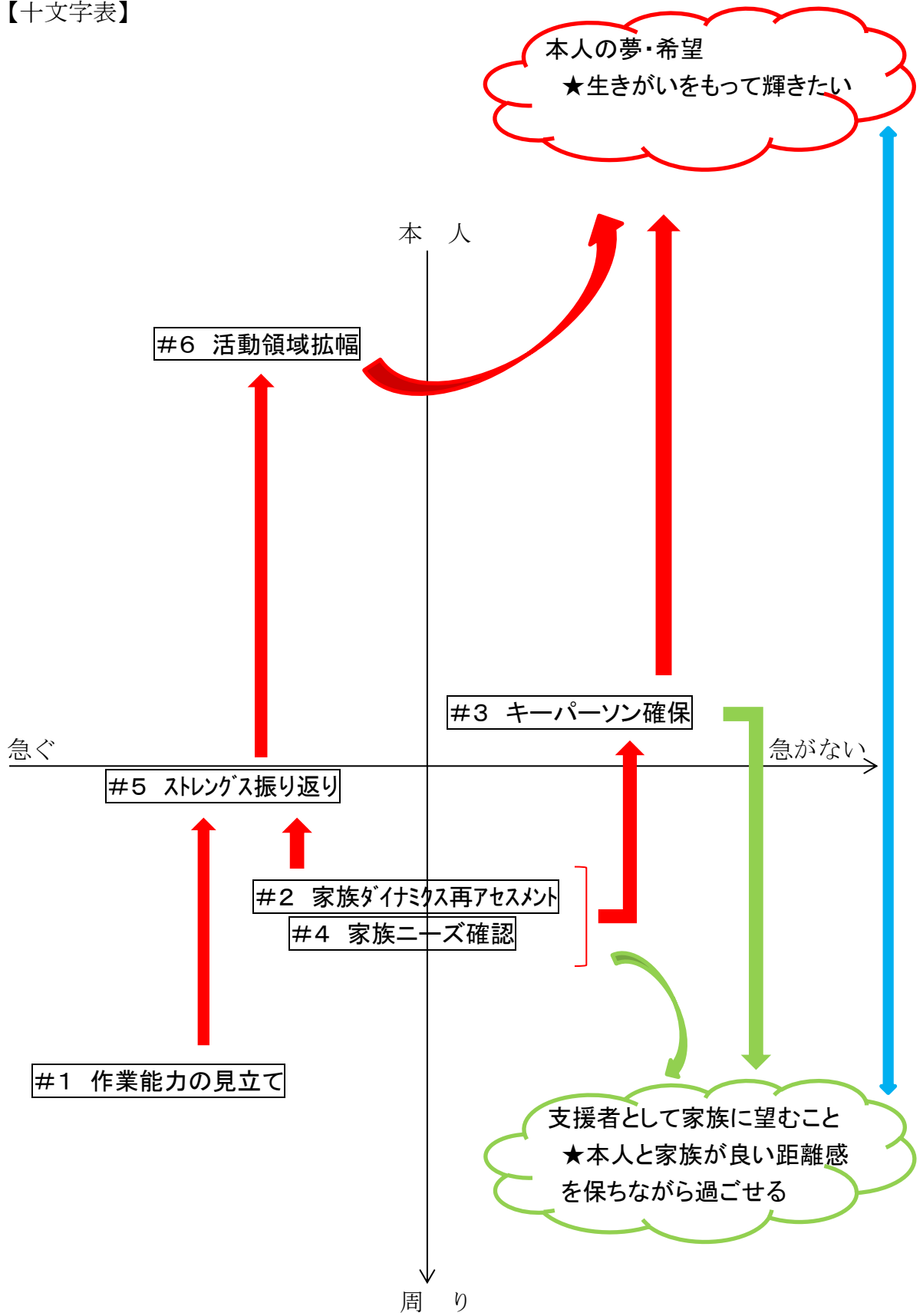
- # 1 ・現在利用している就労継続支援A型事業所に、一般就労に向けたご本人の作業能力や適性についてアセスメントを依頼し、実施する（⇒相談支援専門員、就労A型事業所職員、1か月後）
- # 3 ・ご本人にとってのキーパーソンを見つける（⇒相談支援専門員、6～9か月後）
 - ・ご本人の興味のあるものと絡めて、例えばパワースポットを訪ね歩くなど、長男と2人で外出したり旅行したりして、「日常」を離れてみる（⇒相談支援専門員、時期未定）
- # 4 ・家族のご本人に対する思いや今後の希望などを聞く（⇒相談支援専門員、6か月後）
 - ・医療機関の協力を得て、家族に対してご本人の病状の理解を深めてもらう（⇒相談支援専門員、主治医及び病院スタッフ、時期未定）
- # 6 ・カフェ巡りや愛煙家のサークルなど、ご本人の嗜好品から活動の幅を広げてみる（⇒相談支援専門員、3～6か月後）
- # 5 ・現在できていること、強み＝ストレングスをご本人に伝えることでご本人自身が振り返りを行い、自信を持てるような働きかけを行う（⇒相談支援専門員、3か月後）
 - ・ご本人と一定時間行動を共にすることで、IADLを把握する（相談支援専門員、精保センターOT、時期未定）
 - ・パソコン教室など将来の就労に役に立つ活動を始めてみる（⇒相談支援専門員、時期未定）
- # 2 ・ご本人と家族、ご本人と長男など、ご本人とご本人を取り巻く家族とのこれまでの経過やエピソード、関係性とそれに起因すると思われる現状について丁寧にアセスメントし直す（⇒相談支援専門員、6か月後）

*番号は、出された支援のアイデアに対し、事例提供者が実践したいと選択した支援の順番

【地域課題（あったらいいな）】

- ・支援者間の強固なネットワークがつかられていない
- ・精神障害者が気軽に日中立ち寄り、活動等に参加できるフリースペースのような居場所が地域に不足している
- ・同じ疾患や同じ悩み等を分かち合えるセルフヘルプグループのような出会いの場が不足している
- ・地域社会の障害理解が進んでいない

【十文字表】



【相談支援専門員の見立て(アセスメント)】

36歳のうつ病を患う女性。91歳の祖母、アルコール依存の夫(本人の実父)からDVを受けた経歴をもつ67歳の母、摂食障害で入院歴のある34歳の妹、地元の公立中学校に通う14歳(中学2年生)の長男との5人暮らし。本人、妹とも精神保健福祉手帳を所持していて、精神科へ定期通院し内服治療を続けている。

本人は、高校在学中に進学の不安から精神科を初めて受診し、その後入院。高校卒業後も、専門学校中退、勤務先退職、離婚など、ライフイベントの節目で情緒不安定になることが多く、何度か精神科への入退院を繰り返している。

他者との関係構築が苦手で友人はなく、家族関係も良好とは言えず、本人が心から安らげる人や場所がない状態と推測され、心身の調子を整えながら、生きがいをもてるような、自信をもてるような支援策を検討する必要があると思われる。また、家族関係が殺伐とした印象もあり、家族のニーズ把握、家族支援のアプローチも重要と考えられる。

【支援の方向性(プランニング)】* 支援のアイデア選択の根拠

1 作業能力の見立て

将来的に一般就労を希望する本人の作業能力や職業適性を判断する一助にするため、現在利用している就労継続支援A型事業所に協力を依頼し、アセスメントを実施することは、単に作業面での見立てにとどまらず、自宅内外での本人のIADLを正しく把握し、環境調整をする上で必要なことと思われる。

2 家族ダイナミクス再アセスメント

現在の家族関係に影響を及ぼしていると考えられる過去のエピソードや生活歴などを、家族それぞれ丁寧にアセスメントすることで、本人がストレスを感じにくい家族との関係性を検討することができると考えられる。

3 キーパーソン確保

本人が安心して自らの思いや気持ちを伝えられる支援のキーパーソンを設定することで、情緒安定につながるばかりか、支援者間の役割がより明確になり、チームとしてより一層有効に機能することができると考えられる。

4 家族ニーズ確認

良好な家族関係を築くきっかけにするために、家族の本人に対する思いや希望を丁寧に聞き取り、理解することは必要であると言えよう。その際に、それぞれがこれまで抱

えてきた困難さやストレスについても、十分配慮した関わりが必要であり、家族全体を支える視点が求められる。

5 ストレngths振り返り

心身の不調が続いていて、生活全般に渡り自信を喪失している現状が見て取れる。無理のない範囲で、今本人ができていること、取り組んでいることを、客観的に支援者が把握し、本人が理解しやすいよう配慮しながら伝えることで、本人の生活意欲を喚起し、少しずつ自信を取り戻していく作業を行うことは、今後の生きがいや希望につながるであろう。

6 活動領域拡張

コーヒーやたばこといった本人の嗜好品を糸口にして、他者との交流や社会との接点を築くことに苦手意識のある本人の心持ちを少しずつ外向きに変えていく取り組みを行うことは、将来一般就労を希望する本人にとって、社会経験を積む貴重な機会になり得ると思われる。ただし、病状には細心の注意が必要で、決して負荷がかかりすぎないような配慮が求められる。

【支援のポイント解説】

同居する家族が様々な生活背景や疾患等をもち、その中で家族との関係に悩みながら、自身も過去に精神科の入退院を繰り返し対人関係構築に不得手さを感じている精神障害者（うつ病）の事例。

こういった事例の場合、優先されるべきは病状の理解とご本人の心身に影響を与えていると推測される要因の分析である。家族との関わり、対人面の困難さという部分では、特に生育歴を丁寧に見ていく必要がある、そこから支援の手がかりを探ることが望ましい。また、家族関係が不調の場合、一方向からの見立てではなく、双方からの情報収集が必要である。

うつ病の場合、何事にも自信や意欲を失くしている場合が多いため、ご本人の興味、関心のあるものを切り口にして、手軽に取り組める具体的な支援策を提案することが求められる。

今回の事例の場合、「好物のコーヒーを媒体にしてカフェ巡りなどをして社会との接点を増やしていく」といった支援アイデアが提案されている。

サービス等利用計画・障害児支援利用計画

利用者氏名(児童氏名)	塩谷 恵美 様 (仮名)	障害支援区分	区分なし	相談支援事業者名	
障害福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			
計画作成日	平成26年10月	モニタリング期間(開始年月)	3か月(平成27年1月～27年10月)	利用者同意署名欄	

利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)	(本人) 病気を安定させたい。息子とアパートで二人暮らしがしたい。就職したい。
総合的な援助の方針	ご本人とご家族が良い関係を保つことができ、ご本人の体調も安定し、趣味を通して生活の幅が広がり、楽しい生活が送れるよう支援します。
長期目標	家族の気持ち理解できて、体調の安定を図りながら、生きがいをもって生活します。
短期目標	体調に気をつけながら、自分の適性を知り、生活に自信がつくことで、楽しみが増えます。

優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等		課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
				種類・内容・量(頻度・時間)	提供事業者名(担当者名・電話)			
1	自分がどんな仕事に向いているのか知りたい	ご本人と支援者が職業適性について理解する	平成26年11月	●就労継続支援A型(5日/週) ご本人の得意なことや苦手なことについて確認する	就労Aサービス管理責任者	体調に気をつけて事業所に通う	平成26年11月	体調不良時には無理をしない
2	前向きな気持ちで自立した生活を送りたい	ご本人が生活する中で少しでも自信が持てるようになる	平成27年1月	現在できていることや今までできていたことを支援者と一緒に振り返る	相談支援専門員	振り返りの内容をノート等に書き留めておく	平成26年11月	
3	好きなコーヒーやたばこで楽しい時間を過ごしたい	交友関係が広がり、生活の楽しみが増える	平成27年4月	カフェ巡りや愛煙家サークルへの参加などを検討してみる	・相談支援専門員 ・就労Aサービス管理責任者	行ってみたいカフェなどを雑誌で探してみる	平成27年1月	
4	家族と良い関係を保ちたい	ご本人とご家族の生活歴をご本人と支援者で把握する	平成27年4月	ご本人とご家族の生活歴やご家族の思いなどを丁寧に聞き取る	・相談支援専門員 ・A市保健師 ・地域包括支援センター職員	家族の一員として自分の素直な気持ちを支援者に伝える	平成27年1月	
5		ご家族のご本人に対する思いや希望を、ご本人と支援者で理解する	平成27年4月				平成27年1月	
6	信頼できる人に話を聞いてもらいたい	キーパーソンの確保により、支援チームが機能し、より良い支援が提供できる	平成27年7月	キーパーソンを中心に、支援者等がそれぞれの役割を果たす	・相談支援専門員 ・就労Aサービス管理責任者 ・A市保健師 ・地域包括支援センター職員 ・主治医、精神保健福祉士 ・精神保健福祉センター作業療法士	安心した気持ちで自分の気持ちを支援者に伝える	平成27年4月	

サービス等利用計画・障害児支援利用計画【週間計画表】

利用者氏名(児童氏名)	塩谷 恵美 様 (仮名)	障害支援区分	区分なし	相談支援事業者名	
障害福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			

計画開始年月	平成26年10月
--------	----------

	月	火	水	木	金	土	日・祝	主な日常生活上の活動
6:00	起床 長男の朝食準備 朝食・服薬	起床 長男の朝食準備 朝食・服薬	起床 長男の朝食準備 朝食・服薬	起床 長男の朝食準備 朝食・服薬	起床 長男の朝食準備 朝食・服薬	起床・朝食・服薬	起床・朝食・服薬	◎就労継続支援A型では、稚芽栽培に取り組む。 ◎休日は自宅でゆっくり過ごす。
8:00	再入眠	再入眠	再入眠	再入眠	再入眠			
10:00	就労継続支援A型	就労継続支援A型	就労継続支援A型	就労継続支援A型	就労継続支援A型			
12:00						昼食・服薬	昼食・服薬	
14:00								
16:00	夕食準備・入浴	夕食準備・入浴	夕食準備・入浴	夕食準備・入浴	夕食準備・入浴	夕食準備・入浴	夕食準備・入浴	週単位以外のサービス ◎精神科病院通院(2週間おき)
18:00	夕食・服薬	夕食・服薬	夕食・服薬	夕食・服薬	夕食・服薬	夕食・服薬	夕食・服薬	
20:00								
22:00	服薬・就床	服薬・就床	服薬・就床	服薬・就床	服薬・就床	服薬・就床	服薬・就床	
0:00								
2:00								
4:00								

サービス提供によって実現する生活の全体像

ご本人の生活支援における着眼点としては、体調管理を大原則に置きつつ、ご本人の強みやできていることを支援者と一緒振り返る取り組みを行うことで、ご本人自身が適性や特性を理解し、自信をつけて、日常生活を楽しむことを基本に据えた。そのため、就労意欲を持っているご本人の希望を尊重し、就労継続支援A型のサービスを利用することで、健康面や疾病に配慮した支援を行いながら、生活リズムを安定させ、ご本人のペースで作業能力の維持、向上が図られることを目指した。また、ご本人とご家族との適切な信頼関係が醸成されるよう、ご本人やご家族の心情に配慮した支援を重視する計画を考えた。